

コスタリカ内政・外交定期報告（2022年10月）

2022年10月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

【要旨】

内政

- 1 大統領選不正資金問題：国会の特別委員会の開催
- 2 国民解放党新執行部役員の選出

外交

- 1 チャベス大統領とバルガスSICA事務局長との会談
- 2 アンドレ外相のメキシコ、アルゼンチン、シンガポール及び日本への訪問予定
- 3 アンドレ外相による太平洋同盟閣僚会合の出席
- 4 コスタリカ政府による米州開発銀行（IDB）次期総裁選への候補者の指名の辞退

【各論】

1 大統領選不正資金問題：国会の特別委員会の開催

(1) 10月17日、国会の政党財政問題特別委員会の第1回委員会が開催された。同委員会は、前回の大統領・国会議員選挙での不正な選挙資金の流れを調査することを目的に、野党の拡大戦線（FA）が設立を提案し、与党社会民主進歩党（PPSD）、野党新共和国党（PNR。福音派）以外の野党4政党の賛成で設立が決まったもの。

(2) この日の委員会では、チャベス大統領（PPSD）の選挙キャンペーンに対し、政党であるPPSDではなく、当時のチャベス候補に違法である個人への献金を行った疑いがもたれている民間信託団体「繁栄するコスタリカ」開設者の一人である企業家のジャック・ロエブ氏及び、チャベス大統領の選挙時のアシスタントであったソフィア・アグエロ氏を参考人として召喚する決議を採択した。ロエブ氏はPPSDの選挙支援の最大の出資者で、「繁栄するコスタリカ」を通して、チャベス氏個人への献金を行った疑いが報道されている。またアグエロ氏は、ロエブ氏から父であるフリオ・アグエロ現国会議員（PPSD）への献金を、党を通さず、自身の口座で受け取った疑いが報道されている。

2 国民解放党新執行部役員の選出

(1) 10月22日、野党国民解放党（PLN）は執行部役員全員の解任に伴う党大会を開催し、同党の新たな執行部役員が選出された。リカルド・サンチョ元上下水道公社（AyA）総裁が委員長に、ミゲル・ギレン元同党国会顧問が書記長に選出された。両人を含めた新執行部役員は、本年12月15日に就任する予定。

(2) サンチョ次期委員長は、ホセ・マリア・フィゲーレス元大統領に近い人物として知ら

れており、フィゲーレス元大統領が本年の大統領選挙に同党の大統領候補として立候補した際は、サンチョ次期執行部長はフィゲーレス元大統領の選挙キャンペーンに同行した。

(3) ギレン次期書記長はオスカル・アリアス元大統領政権時にPLN議長団顧問を務めており、アリアス元大統領と近い関係にあり、アリアス元大統領は次期書記長選挙に際してギレン氏への積極的な支持を表明した。なお、次期書記長選挙では、フィゲーレス元大統領もギレン氏への支持を表明した。

(4) 新たな執行部役員が選出されたことに伴い、同執行部における在任が問題視されていたグスタボ・ピアレス書記長（前国会議員）は正式に執行部から退く。

外交

1 チャベス大統領とバルガスSICA事務局長との会談

(1) 10月4日、チャベス大統領は、大統領府において、ウェルナー・バルガスSICA事務局長（ニカラグア出身）と会談を実施した。同会談には、アンドレ外務大臣が同席した。

(2) 同会談後に大統領府によって発出された声明によると、チャベス大統領は、同会談においてバルガス事務局長に対して、ニカラグアのロシア軍駐留承認（※「犯罪取締り」が名目）に対する懸念の表明を行った。

(3) 右に関連し、チャベス大統領はバルガス事務局長に対して、コスタリカがSICAの安全保障委員会（la Comision de Seguridad）にオブザーバーとして参加し、組織犯罪との戦い、麻薬取引、災害時における人道的救助等の情報に加えて、SICA加盟国の軍事的バランスに関する情報を得ることができるよう依頼した。

(4) また、チャベス大統領は、バルガス事務局長に対して、南米地域から米国へ向かう移民、特にベネズエラからの移民に対する（SICA加盟国における）対策のコスト及び影響を考慮に入れるよう求め、行動のための具体的な措置を定義することの必要性を訴えた。

(5) バルガス事務局長は、本年8月に同人がSICA事務局長候補に選出されるためのチャベス大統領による支持に改めて謝意を示しつつ、「SICAは、コミュニケーションの促進、真の意思決定機関になるための努力、政治的対話の促進、及び行政の透明化を通じた信頼の強化の4つの軸で構成された行動計画を有している。我々は、組織全体としてのアイデンティティに基づいた行動を視覚化するための取組みを促し、チームとして行動するための立場を確立する必要がある」旨述べた。

2 アンドレ外相のメキシコ、アルゼンチン、シンガポール及び日本への訪問予定

(1) アンドレ外相は、最高レベルの閣僚級会合及び二国間会合等に出席するため、今後3週間において、メキシコ、アルゼンチン、シンガポール及び日本を訪問する。

(2) 具体的には、10月19日から22日の日程で、アンドレ外相はメキシコを訪問し、チリ、コロンビア、メキシコ及びペルーで構成される太平洋同盟の閣僚級会合に出席する。今年7月、チャベス大統領は、コスタリカの太平洋同盟への加盟への関心を公式に発表した。

同同盟は、中南米地域全体の、総GDPの41%、財の輸出の58%及び対内直接投資の38%を占めている。

(3) 次に、アンドレ外相は、10月22日から29日までの日程でアルゼンチンのブエノスアイレスを訪問し、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）の議長国を同国に引き継ぐ。ECLACの枠組みにおいて、アンドレ外相は、中南米地域が、コスタリカのような中所得国が返済不要な国際協力資金にアクセスするための新たな基準を持つことの重要性を強調してきた。

(4) また、アンドレ外相は、EU・CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）外相会合に出席する。同会合は、EUと中南米地域の接近及び課題に対する共同の関心を示す、EU・CELAC首脳会合を準備するための機会となるだろう。

(5) 加えて、アンドレ外相は、10月最終週及び11月初旬にかけて、マヌエル・トバル貿易大臣とともにシンガポール及び日本を訪問し、外国投資を促進し、それぞれの国とコスタリカとの協力関係を強化することを目的として、各国の最高レベルの政府関係者達との二国間会合に出席する予定である。

3 アンドレ外相による太平洋同盟閣僚会合の出席

(1) 10月20日、アンドレ外相は、メキシコシティにて実施された太平洋同盟の閣僚会合に出席した。

(2) 同会合において、アンドレ外相は、コスタリカ政府の太平洋同盟加盟に向けたプロセスを開始するために、本年7月19日にコスタリカ政府によって申請された太平洋同盟への加盟を、太平洋同盟の外相らの前で正式に表明した。太平洋同盟加盟4国（メキシコ、コロンビア、チリ及びペルー）の外相らは、コスタリカ政府による太平洋同盟加盟に向けたプロセスの開始への支持を表明した。

(3) 加えて、マルセル・エブラル墨外相は、太平洋同盟の議長国として、アンドレ外相に対して、11月にメキシコのオアハカで実施される太平洋同盟の首脳級会合にチャベス大統領を招待する旨述べた（※同会合は中止となり開催されず）。

4 コスタリカ政府による米州開発銀行（IDB）次期総裁選への候補者の指名の辞退

(1) 26日、大統領府及び外務省は共同で声明を発表し、コスタリカ政府は米州開発銀行（IDB）次期総裁選への候補者の指名を行わない旨明らかにした。

(2) 同声明において、大統領府及び外務省は、国際分野における幅広い協議を経て、IDB次期総裁選にコスタリカが指名する候補者が当選する可能性は低いと結論付け、現在の国際的な情勢は適切ではなく、この機会にコスタリカを敗北に晒さないことが懸命であると考えた旨述べた（※同声明では検討の対象となった候補者の名前は明らかにされていないが、ラウラ・チンチージャ元大統領が同次期総裁選への立候補の関心を表明しており、10月7日にチンチージャ元大統領はチャベス大統領と面会し、自身への支持を要請した。

他方、チャベス大統領は、候補者の指名に先立って事前調査を行うとし、指名を留保していた)。

(3) 同声明の発表を受けて、チンチージャ元大統領は、自身のSNS上で、コスタリカ政府による決定を受け入れると述べつつも、今後の総裁選への立候補の見通しについては明らかにしていない。

(了)